

## 弔 辞

大子ジュニアレスリングクラブ 奥澤容司 会長の葬儀に際し、謹んで一言申し上げます。

諸先輩方や数多の有志の方々を前に、若輩者が弔辞を申し上げることをお許しくください。

「貴則、何でお前なんだ、ふざけんじゃねえ」と、貴方は怒っていることでしょう。

「悔しかったら私にやらせないでください。」

貴方が、私の弔辞に不満を持つことは、私自身が一番わかっています。しかし、私が弔辞を申し上げなければいけない訳があります。それは私が誰よりも一番お世話になり、一番ご迷惑をおかけしたからです。どうか、どうか、最後のわがままをお許しくください。

私にとって、貴方は信頼する親父であり、頼れる兄貴であり、そして心強い親分でした。

様々なことを貴方から学びました。レスリングの指導者として、人間としてどう有るべきか。遊びも悪いことも全て教わりました。「安心してください。さすがに今日は都合の悪いことは言いません。」

今日も大勢の方が参列してくださっています。貴方の人柄が伺えます。多くの重責を担ってきた貴方は、大子町連合若連会長として、難局を乗り越え盛大な祭りを開催いたしました。大子小学校PTA会長を務め、だ

いご小学校統合に関して大変尽力されました。その他、常陸大子ライオンズクラブ会長など数々の役職等を歴任されました。

その多くの功績の中で一番の実績は、青少年の健全育成を目的に一九八二年、大子ジュニアレスリングクラブを設立したことではないでしょうか。あと僅かで三十周年を迎える当クラブにおいて、多くの全国チャンピオンを育成したこと。そして何より、半人前である私たち後輩を育成くださったことが、何にも勝る功績ではないでしょうか。

貴方の卓越した指導力により、当クラブは文部科学大臣表彰、日本スポーツ少年団表彰など多くの賞を受賞しています。

その積極的な活動には、中国北京体育学校へのクラブ単独遠征もあります。この時も様々な課題がありましたが、最後は貴方の英断「俺に任せろ、行ってこい」の、一言で決まりました。

貴方の活動方針は、レスリング以外にも幅広く様々な活動を行うことでした。

葬儀の今日も「みんなのまいん」という事業で、バク転などレスリング体操を子供たちが披露してきました。

中止ではなく、実施することを貴方が望んでいると確信して行いました。子供たちを高いところから見守ってくれていたことと思います。「大したもんだ、よくできた。」と、褒めてくれていることでしょう。

この三十年間には様々なことがありました。運営方針をめぐり深夜まで議論することも常でありました。時には叱られ、怒鳴られながら、貴方と過ごしたあの素晴らしい時間は、残念ながらも戻ってはきません。

打ち合わせ場所は、何時も奥澤さんの自宅でした。たまには別な場所でも打合せを行いましたと言うと、あなたは「家はかまわないから、大丈夫だ」と言ってくれました。

内容が白熱している時に、話を脱線させるのは何時も貴方でした。

屈託のない笑顔で、少年の様に目を輝かせ、軽快なテンポの話術は、目の前に映像が浮かぶような見事なまでの奥澤ワールドで、場が盛り上がり、ついつい乗せられる居心地のいい空間に引き込まれました。

今となっては、私の大切な思い出であり、貴重な財産です。

私の携帯電話の短縮登録には、妻よりも誰よりも先に、貴方の電話番号が登録されています。これからも相談したいことがあったときには、また、いつものようにずうずうしく電話をします。

いい加減にしろと怒るのでしょうか。それともやさしく教えてくれるのでしょうか。

奥澤さんだったらどう判断するんだろう、どう行動するんだろう、自身に問いかけてみたいと思います。貴方に恥じない生き方が見えてくるはずです。

最後に、貴方の座右の銘である“継続とは力なり”を胸に刻み、私たち大子ジュニアレスリングクラブは、益荒男たる奥澤容司会長の気概を受け継ぎ、邁進していくことをここにお誓いいたします。

安心してお眠りください。奥澤さん ありがとうございます。

平成二十三年一月十六日

大子ジュニアレスリングクラブ

代表指導者 藤田 貴則